

禅の墨蹟 (恭真書)



仏・法・僧…お釈迦さま、お釈迦さまの教え、お釈迦さまの教えにより修行を続ける人々。「三宝」と言う。

大本山永平寺晋山式

四月二日大本山永平寺に於いて南澤道人禅師の晋山式が厳修されました。禅師は満九十三歳。永平寺第八十世貫首となる。平成二十五年春の当寺授戒会(当時八十五歳)には戒師をお務めいただきました。



入山する禅師 永平寺傘松誌より

梅花だより

第四宗務所主催の梅花流檀信徒地域講習会が当寺を会場に開催されます。日時 九月十日(金)午後一時半〜四時まで。

寺院だより

▼五月十五・十六日、西条太總寺様の晋山結制式が無事円成し、林啓法師が二十八世の法灯を継がれました。

▼五月二十二・二十三日、黒川長谷寺様の晋山結制式が無事円成し、安澤尚永師が二十一世の法灯を継がれました。両師とも今後の活躍が期待されます。

訃報 本郷 齋藤均氏逝去

七月二日(享年九十二)長年当寺院員として尽力されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

お知らせ

▼乗雲閣(位牌堂) 3階の各家位

牌壇の造花を春彼岸前に引き続き、お盆を迎える前に五十戸分取替えました。全部一度にはできませんので徐々に新しいお花に替えています。次回は秋彼岸前です。

▼ご遠方のお檀家さまにも寺報

「乗雲」、護持費のお願い等を送付していますが、ときに住所変更等により通信物が届かないで戻ってくる場合があります。住所変更の場合には必ずご連絡をお願いいたします。

▼コロナ禍で人々の心も疲弊して

います。お寺との関わり方つながりも変わってきました。早く収束を願うばかりですが、このお寺機関誌「乗雲」が少しでも檀信徒の心の平安をもたらす一助となりますよう念じています。

仏事の知識

年忌法要はなぜ3と7?

本来は毎年故人の命日に亡き人を偲び供養すべきであるが、「3」と「7」の命日になっている。ゆえに一周忌以後は、三回忌、七回忌、十三回忌、十七、二十三、二十七、三十三回忌と決められている。ちなみに三十三回忌が弔い納めとされる。

「3」は「2」を超える意味であり、「有・無」「損・得」など極端に偏らず生きてゆく、仏教でいう「中道」の教えによっている。「7」も六道(地獄、餓鬼、畜生、修羅、人間、天上)の世界を超えたところに悟りの世界があるとする考え方を取り入れたものとされる。(他にもいろいろ説有り)

普段の生活に忙しく故人の年忌のことは忘れがちですが、「3」と「7」の本来の意味をよく理解し、故人を偲ぶとともに自分のこれからの生き方を考える、そのための大切なご法事が年忌法要であると思えます。

仏事の知識 ↓



曹洞宗公式 YouTube



← QR コード

スマホでご覧ください。

●曹洞宗公式ホームページ

<http://www.sotozen-net.or.jp/>

●曹洞宗禅ナビ(寺院ポータルサイト)

<http://www.sotozen-navi.com/>